

寛永行幸

かんえいぎょうこう

文化が社会を動かす力を
現代にひらく



江戸時代のはじめ、寛永3（1626）年9月6日。
人々が「平和」を実感し、「文化」が花開いた瞬間がありました。
戦国の世を乗り越え、日本各地から大名が京都に集合し、
徳川幕府が威信をかけて、天皇を5日間におわたつてもてなした
一大イベント、寛永行幸が令和の世によりがえります。

四百年祭



寛永行幸四百年祭実行委員会

寛永行幸

寛永行幸

四百年祭について

令和8年（2026年）、

寛永行幸から400年の節目を迎えるにあたり、

行政・経済界・文化芸術団体などによる

オール京都の取り組みとして、

二条城を中心とする寛永文化ゆかりの地において、

寛永行幸や寛永文化を振り返る記念祭を開催します。

目的・意義

〔産業・地域〕

寛永行幸を機に、京都にはさまざまな産業が興りました。その影響は全国にも拡がり、寛永期創業の企業は現代も多く活躍しています。四百年祭でもこの活気をよみがえらせ、新しい産業を生み出す契機とします。

〔日本文化〕

多彩な文化が育まれ、「日本文化の故郷」とも称される寛永時代。当時は茶道や華道などの諸芸に流派はなく、多くの芸能文化がさまざまな身分の人々に広がりました。そんな寛永時代を振り返り、今とこれからの芸能文化の価値を再確認します。

〔平和〕

徳川家が天下統一を果たした江戸時代。力で競い合っていた大名たちの美しい行列を見た人々は「平和」の訪れを実感。その後の文化や産業の振興につながります。この四百年祭を通して平和の価値を確かめ、世界平和への思いにつなげましょう。

〔事業展開のイメージ〕

主催事業

（京都／全国）

連携事業

（京都／全国）

関連事業

（京都／全国）

実行委員会による事業

※一部

◇行幸行列の再現

【2026年12月6日】

後水尾天皇の行幸行列を再現した時代行列を、京都御所から二条城の区間で実施します。

◇寛永文化の理解促進事業

【2026年随時】

専門家や文化人によるセミナーやシンポジウムのほか、各種業界と連携した体験イベントを実施します。

全国各地の
「寛永」にまつわる場所や事業の発掘

「寛永」をテーマにした
連携団体・企業の事業

◇「寛永」にちなんだ展覧会

【2026年】

京都文化博物館（9/19～11/15）、
二条城障壁画展示収蔵館（春・夏・秋・冬の4期）、
泉屋博古館（9/5～10/18）の
3館を中心にさまざまな展示企画を予定。

「寛永行幸四百年祭」を応援したい！

実行委員会では、寄付などを募集しています。皆さんも歴史に参加しませんか。

詳細は
こちら



基金で応援

京都文化交流コンベンションビューロー
「寛永1626基金」で
寄付を募集しています。

ふるさと納税で応援

京都府の
企業版ふるさと納税による
寄付を募集しています。

連携・関連事業で参加

「寛永」をテーマにした独自事業や関連行事を
実施していただける企業・団体を募集しています。
お問合せ：info@kaneigyoko400.jp

寛永行幸四百年祭実行委員会

（文化庁連携プラットフォーム内）

<https://kaneigyoko400.jp/>

info@kaneigyoko400.jp

最新情報は
公式HP・SNSで
チェック！



公式 HP



FACEBOOK



Instagram



X

※本紙に掲載している絵は京都市指定文化財「二条城行幸図屏風」（泉屋博古館所蔵）の部分です

※表1写真提供：京都市元離宮二条城事務所 ※2026年9月刷



本イベントは、文化庁「令和8年度「文化遺産活用
事業費補助金（全国各地の歴史的な文化遺産
活用推進事業）」の補助を受けて実施しています。

寛永行幸とは――

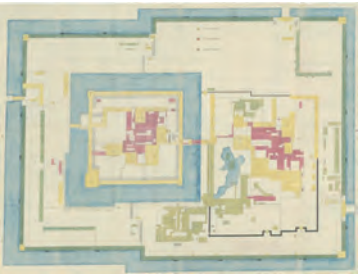
江戸時代のはじめ、寛永3（1626）年9月、後水尾天皇が大御所（二代將軍）徳川秀忠と三代將軍徳川家光の招きに応じ、京都・二条城に行幸しました。天皇が御所をでること、ましてや武家のもとに向くことは歴史上も数度だけの異例なことで、都をあげての歴史的行事となりました。

行幸は9月6日から10日の5日間で、秀忠の五女で天皇の妃となった和子や幼い姫宮も招かれ、善美を尽くした座敷飾りに贅沢な料理、舞楽や蹴鞠、和歌や管弦、能楽や乗馬など最上級のもてなしが繰り広げられました。特製の調度類は数々の進物とともに天皇方に献上されたといいます。そのなかで、市井の人々に強烈な印象を与えたのは、行幸初日、將軍に導かれ天皇ら朝廷方が二条城へ向かう道中のきらびやかな光景でした。將軍には全国の大名も盛装で付き従いました。大坂夏の陣からわずか11年後、稀代の行列を見物するため国中から集った民衆は、祭りのような熱気のなかで、朝廷と幕府の融和、そして幕府の揺るぎない威光を目のあたりにしたのです。一方で、行幸景氣に沸いた京都からは、伝統と革新を織り交ぜた寛永文化が階層を越えてうまれ広がることとなりました。

寛永の大改修で現在の二条城に

二条城は慶長8（1603）年、徳川家康の命により築城されました。この`慶長二条城、は現在の二の丸御殿の部分のみで、堀は一重であったとされています。北西隅には五重の天守がありました。二条城に後水尾天皇が行幸されるにあたり、大御所・徳川秀忠と三代將軍・家光は、`慶長二条城、をスケールアップさせました。敷地を西に拡げ、秀忠のための本丸御殿を建築し、堀を増設。二の丸御殿の南側には行幸御殿、中宮御殿などを建築しました。家康が築いた天守は淀城に移築され、代わりに伏見城から五重の天守が移されたと言われてい

ます。家光の居所となったのが、現在も残る国宝二の丸御殿です。狩野派が描いた約千点にも及ぶ障壁画は、現代までその輝きを失っていません。



「二条御城中絵図」 京都大学附属図書館蔵

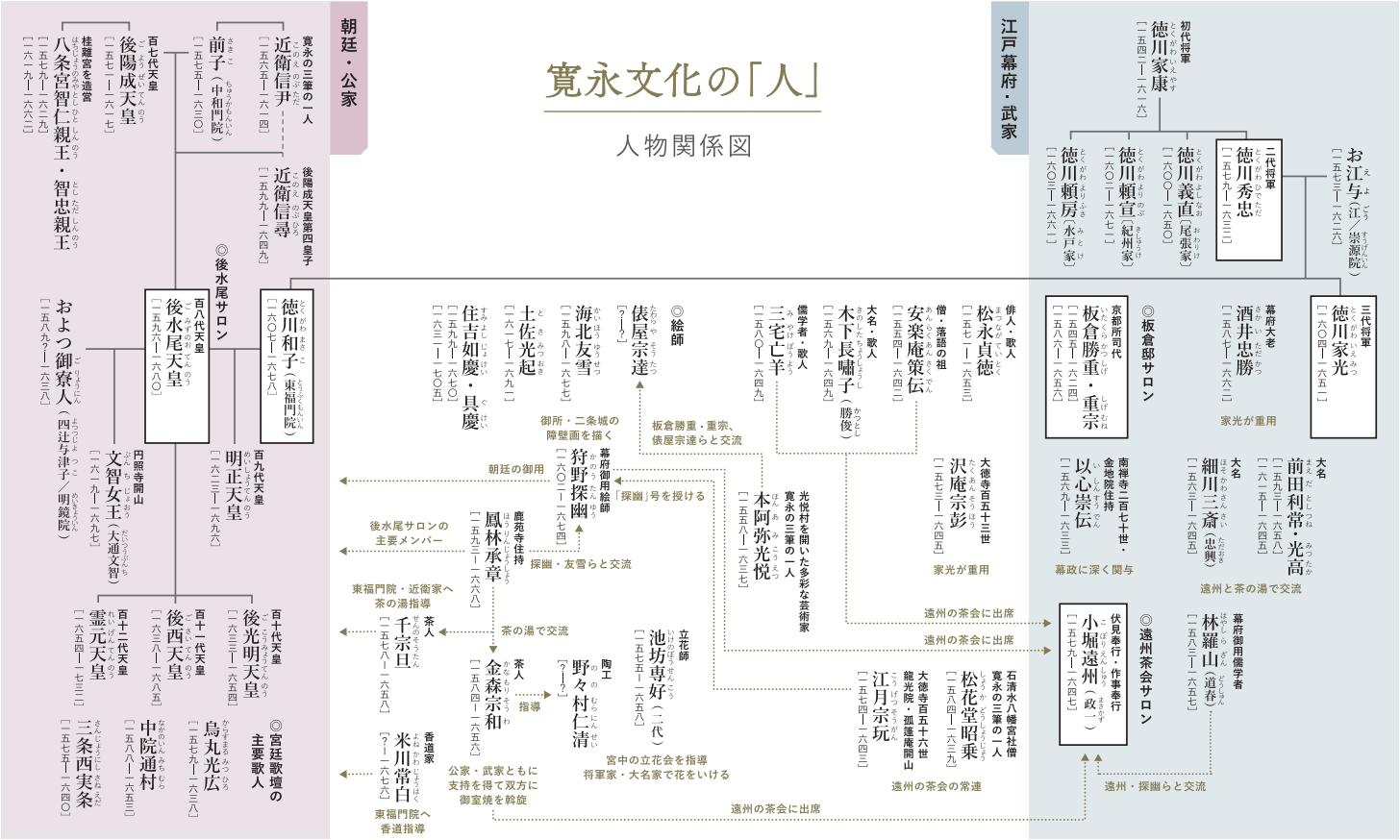
五日間の饗応

1日目	9月6日 晴	
二条城行幸	家光の行列が、禁裏へ向かう。家光は禁裏で後水尾天皇に行幸の礼を述べ、二献の祝い後退出。中宮和子以下女性の行列が御所から二条城へ。家光らの行列が前駆となり、天皇行幸の行列が禁裏から二条城へ向かう。秀忠・家光は二条城の中門で天皇の鳳輦入城を迎える。	
晴れの御膳 内々の御宴		
2日目	9月7日 快晴	3日目 9月8日 小雨
朝の御膳 將軍家光から天皇以下に進物献上 舞楽御覽	朝の御膳 將軍家光から天皇以下に進物献上 舞楽御覽	朝の御膳 大御所秀忠から天皇以下に進物献上 蹴鞠興行 和歌御会 管弦の御遊
4日目 9月9日 半雨半晴	朝の御膳 猿楽（能）御覽	5日目 9月10日 快晴 七五三の御膳 馬進上

※Living History in 京都・二条城 協議会編『京都二条城と寛永文化』(2022年 青幻舎)をもとに作成

花開く「寛永文化」

後水尾天皇は學問を好み、茶の湯や立花などを極めた文化人でもありました。寛永期には後水尾天皇を中心に文化サロンがいくつも形成され、教養と美意識を磨き合いました。後水尾天皇が作り出した階層を超えたサロンで育まれた「寛永文化」は、茶の湯・華・書・画・建築・きもの・陶芸・書物・香など、のちの日本文化に多大な影響を与えています。



寛永文化の生みの親。 文化人をつないだサロンの中心人物 後水尾天皇 (1596-1680年 第108代天皇)	朝廷と幕府をつなぐ姫は、 ファッションリーダー 徳川和子 (1607-1678年 中宮)	大御所として、 幕府の基礎固めの総仕上げ！ 徳川秀忠 (1579-1632年 徳川幕府2代將軍)	「平和」な時代を担う 若きリーダー 徳川家光 (1604-1651年 徳川幕府3代將軍)	武士で、茶人で、作事の名人。 寛永行幸の仕掛け人 小堀遠州 (1579-1647年)
和歌や書道、華道など、學問・芸術に通じた文化人。修学院離宮を造営し、本阿弥光悦ら多くの文化人を庇護した。行幸からわずか3年後、幕府との関係が悪化したために34歳で譲位し、その後51年にわたって院政を行った。	徳川秀忠の五女で、14歳で後水尾天皇に入内した、のちの東福門院。朝幕の関係調整に尽力。華美な衣装を好み、京都の呉服商・雁金屋にたくさんの着物を発注。注文した染物を手本にした「御所染」が流行した。	武家諸法度、禁中並公家諸法度などを出して、幕府体制の確立に努めた。將軍位を45歳で家光にゆずり、大御所となった後も政治の実権を握った。	徳川秀忠の次男。諸大名や朝廷に厳しい規制を設ける武断政治で幕藩体制を完成させた。茶の湯を好み、大規模な茶会を催すこともあった。	江戸幕府では伏見奉行を務める。作事奉行として内裏や仙洞御所の造営、二条城の寛永の大改修を手がけ、二の丸庭園を改修した。茶人でもあり、遠州の茶は「綺麗さび」と称される。

※生没年は、和暦を西暦に換算した。1872年12月3日の改暦以前は、西暦と和暦とでずれがあるが、西暦換算は行っていない ※Living History in 京都・二条城 協議会編『京都二条城と寛永文化』(2022年 青幻舎)をもとに作成



天皇の鳳輦。
屋根には黄金の鳳凰。

行幸初日は稀代のパレード。上段は二条城にむかう天皇一行

中立売通に並ぶ大店にもあふれる見物客。

下段では將軍が御所にお出迎え。お供は全国の大名たち



堀川の上には特設棧敷。
見物客は思い思いに着飾る。

酒にご馳走！
行幸そっちのけで楽しむ人も。

將軍の豪華な牛車。
葵の御紋が燦然と。

徳川家に続いて
伊達政宗の姿も！?